

特色ある学校

地方創生を担う人材育成をめざして

—工業科・商業科併設のメリットを活かした特色ある取組—

徳島県立つるぎ高等学校長 西 裕治

1. はじめに

本校は、徳島県西部の吉野川に沿った、北に讃岐山脈、南に四国山地など自然環境に恵まれた美馬郡つるぎ町にある。平成26年3月に「貞光工業高等学校」と「美馬商業高等学校」が再編統合され、平成26年4月に徳島県では初めての工業科・商業科併設の専門高校「つるぎ高等学校」として開校した。(図1)

電気科、機械科、建設科、商業科、地域ビジネス科の5学科が設置されており、21クラスで生徒数519人(平成29年5月1日現在)である。

本校が所在する美馬郡つるぎ町を含む「にし阿波地域」の主な特徴は、①自然や歴史、農産物に恵まれ、観光資源が豊富 ②高速道路の発展により、関西圏へ3時間程度 ③果樹園や産直市が多く、新鮮な農産物を購入可能などの強みがある。

一方、①少子高齢化が進み、県内でも人口の減少率が高い地域 ②観光資源の知名度が低く、観光客が訪れても多くが日帰りである ③県下でも農産物の平均耕地面積が比較的小さいといった課題もある。

このような課題に一石を投じるべく、学校コンセプトである「人づくり ものづくり まちづくり」のもと、工業科・商業科併設のメリットと、「にし阿波地域」の強みを最大限に活かした地域活性化への「地方創生プロジェクト」



図1 本校の校舎(正門)

を推進している。

徳島県の指定事業として本校が取り組んでいるスーパーオンリーワンハイスクール事業及び「にし阿波地域」の農工商3校連携による6次産業化プロデュース事業、その他地域と連携した教育活動について紹介し、地域創生を担う人材育成をめざした取組の成果と今後の課題について報告する。

2. 本校の学校経営

(1) 教育方針

ア 地域に根ざした工業教育・商業教育を推進し、たくましい実践力と創造性に富み、地域社会の発展に貢献できる高い志と専門的な技術を有するスペシャリストを育てる。

イ 人権尊重の精神を養い育み、友愛と協調を重んじるとともに、さまざまな人権課題の解決に向けて努力する生徒を育てる。

(2) 教育目標

ア 各学科の特色を活かした系統的・発展的な

学習を推進し、各分野のスペシャリストとして社会に貢献しうる人材を養成する。

イ 変化の激しい社会を主体的に力強く生き抜く人材を育てるため、豊かな人間性を育むとともに、生徒一人一人の個性を活かし、その可能性を最大限に伸ばすキャリア教育を推進する。

ウ 基本的人権を尊重し、自らを律しつつ、他の人とともに協調し、他の人を思いやる心や感動する心等の豊かな人間性を育む教育を推進する。

(3) めざす学校像

ア 専門教育の推進と工業科・商業科併設のメリットを活かした教育活動及び学校行事・部活動を通じて生徒が生き生きと活動する学校

イ キャリア教育の充実による生徒の多様な進路実現を図る学校

ウ 地域の産業や伝統文化に学び、地域社会の発展に貢献する学校

(4) 育てたい生徒像

校訓：「協力」「創造」「挑戦」のもと

ア ふるさとを愛し、人権を尊ぶ協調親和の精神を持ち、地域の発展に貢献できる実践力と問題解決能力を身に付けた生徒

イ 将来のスペシャリストをめざし、絶えず新たな知識や技術を習得する創造性豊かな生徒

ウ 心身ともに健康で高い志を持ち、社会から信頼され、チャレンジ精神を持った生徒

3. スーパーオンリーワンハイスクール事業 (徳島県の指定事業)

(1) 目的

ア 「にし阿波」の地域資源や工業科・商業科併設のメリットを最大限に活かし、自然エネルギーやICTを活用した省力化・情報化を実現する「みまからスマート6次産業化」の取組と普及により、地域の強みを活かした6次産業化ビジネスモデルの構築を図る。

イ 自然や文化、特産品などの地域資源を活用

した県内外の観光客を呼び込む「着地型観光」を推進し、デジタルコンテンツ（ICT）による「にし阿波」の情報発信を積極的に行う。さらに、グローバル化の視点に基づき、台湾の姉妹校と交流を深め、海外にも「にし阿波」をPRし、地方創生に結び付ける。

(2) これまでの取組（平成26・27年度）

ア スマート6次産業化モデルの構築

地域の特産である「みまからとうがらし」による「みまから6次産業化」の取組を美馬農業支援センター及び工業・商業科連携による自動栽培システムへと発展させ、成果をにし阿波地域から県内外に発信した。コンテナ栽培への自然エネルギー活用として、太陽光・風力発電、そして雨水集水・灌水システムによる栽培環境の自動制御を行い、「スマート6次産業化モデル」を構築することができた。（図2）

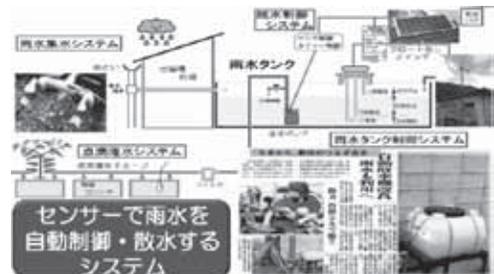


図2 スマート6次産業化モデル

また、地元企業の要望を具現化するため発明した「ラベルはり機」が、パテントコンテストにおいて特許出願対象として選出された。

現在、試作機を企業で使ってもらい、改良を重ねている。（図3）



図3 特許出願したラベルはり機

イ 地域資源を活かした着地型観光の推進

本校は、美馬市と「包括的連携に関する協定書」を締結し、四国大学とも連携を開始し、地域活性化と教育振興に着手している。本年度は和傘づくりに関する知識や技術を習得し、着地型観光を推進した。また、平成28年1月に脇町うだつの町並みに完成した、藍染め・和傘づくりの体験施設を備えた「観光交流センター」で、観光体験プログラムの企画、観光ガイド、和傘づくりのインストラクターや特産品開発に携わり、地域と共にまちづくりを行う体制が整った。(図4)



図4 「にし阿波地域」の観光促進

ウ デジタルコンテンツ (ICT) の活用

美馬市の特産品や伝統文化、「うだつの町並み」等を紹介する次世代高画質 (4K) によるPR動画を制作し、YouTube等で動画を配信した。また、自然エネルギーの活用をPRした「環境にやさしいみまから6次産業化」の動画を制作した。この動画は「環境首都とくしま普及啓発動画」のコンテストで入賞した。

エ グローバル化の視点に基づいた「にし阿波地域」のPR

平成27年11月、台湾の国立二林高級工商職業学校を訪問し、姉妹校協定を締結した。ホームステイや中国語によるプレゼンテーションなど様々な交流活動を通して、日本文化や徳島県(にし阿波地域)をPRした。その後も、もの

づくりの授業や販売実習、部活動などにおいて交流を深めている。(図5)



図5 台湾国立二林高級工商職業学校を訪問

(3) 平成28年度から2年間の取組

地域特産品「みまから」、「工業教育と商業教育のメリットを活かした栽培システムによる生産物の高付加価値化の取組」、「にし阿波の観光資源のPR動画」など、これまでの学習の成果を、二林高級工商職業学校や新竹高級商業職業学校との交流を通してアジアから世界に向けて発信することにより、グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働できる資質・能力を育むための課題発見・解決に向けたアクティブラーニングの視点で人材育成に取り組んでいる。(図6)

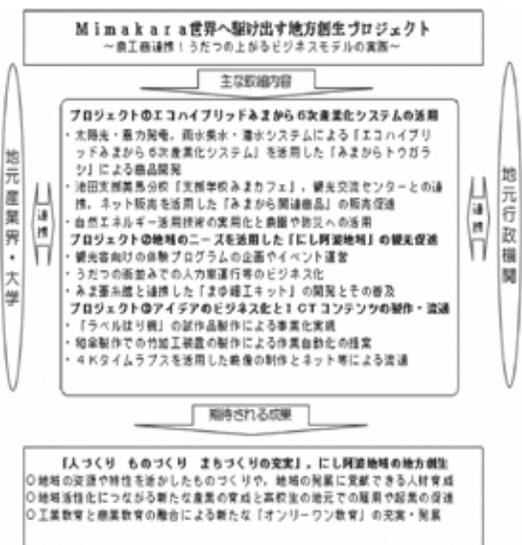


図6 地方創生プロジェクトのイメージ

4. 6次産業化プロデュース事業（徳島県の指定事業）

(1) 目的

「6次産業をプロデュースする人材」を育成するため、農工商の専門高校が連携し、それぞれの専門性を活かすことで、6次産業化に対応した実践的な取組を行う。

(2) 取組内容

平成28年度から、「にし阿波地域」において、現池田高校三好校（農）、辻校（商）、つるぎ高校（工、商）が連携し、規格外の農作物や廃棄される天然材料を活用し、天然アロマオイルを精製し、それを活用した製品づくりや商品開発、普及と販売により、「にし阿波精油の町づくり」をめざした地域活性化を実践している。（図7）



図7 アロマオイルを活用した商品開発

5. さまざまな地方創生に向けた取組

(1) 地域防災への取組（地域の避難所として）

本校は、美馬郡つるぎ町より地域の学校避難所に指定されていることから、防災教育の一環として、各学科の生徒が連携して防災かまどベンチを製作した。完成したものは本校の中庭に設置されており、普段は生徒がベンチとして活用している。（図8）



図8 防災かまどベンチ

ベンチの中には、組み立て式かまどや防災グッズ、非常食が入っており、災害発生時には、避難してこられた地域の方が利用できるよになっている。

(2) 徳島LEDバレイ構想から町おこしへ

本校の近隣の「道の駅貞光ゆうゆう館」前には300本を超える桜並木（長さ約800m）があり、徳島LEDバレイ構想から町おこしの一環で、平成22年に当時の貞光工業高校の生徒が地域の方と連携してLEDイルミネーションを設置した。その後、「桜づつみイルミネーション」は、徳島県の「光の八十八カ所めぐり」に指定された。それ以降継続して、本校生徒がLEDの交換や電源装置のメンテナンスを行い、地域に貢献している。（図9）



図9 桜づつみイルミネーション

6. おわりに

近年、「地方創生」、いわゆる地域再生・地域活性化が国において大きな政策課題となっており、徳島県西部の「にし阿波地域」でも少子高齢化の進行、人口減少に伴う地域産業の担い手減少などが懸念されている。今後もこのような課題に地域と共に向き合い、地域の行政や企業と協力しながら、地域産業の維持、発展に貢献する専門的な知識・技術を身につけ、地域創生マインドを持った人材の育成に取り組んでいきたいと考えている。

本校は、開校4年目を迎えた歴史の浅い学校であるが、今後も地域と連携し、地域の教育力を活かした実践的な取組を継続・発展させていくことにより、地域活性化に向けた本校ならではのまちづくりを推進していきたい。